

理研会報

発行日：平成27年9月24日
号数：No. 375
発行：印旛地区教育研究会理科研究部
HP：http://rikainba.com
メール：rikainba@yahoo.co.jp



去る8月25日(火)、第65次印教研集会理科研究部会が開催されました。小学校部会は成田国際高等学校、中学校部会は成田小学校を会場とし、それぞれ5つの部会から貴重な提案をいただきました。そして、北総教育事務所主席指導主事 静間 慎一先生、富里市教育委員会学校教育課主幹 古谷 成司先生より、各提案について丁寧にご助言をいただきました。選考の結果、小学校部会は3部会、



中学校部会は4部会が県教研へ進むことになりました。今回は若い先生方の提案が多く見られ、研究活動を通しての広がりや先輩方から後輩への技術や知識の伝達を感じられる場面もありました。

助言者の先生方、提案された各部会の先生方、司会、記録、受付補助等でご協力をいただきました先生方に、心より御礼申し上げます。



☆ 参観された先生方から ☆ (敬称略)

四街道市立八木原小学校 三澤 佳代子

毎年、この教研集会がよい刺激となり、日々の教育実践にとっても役立っています。

近年、これからの教育全般において、子どもたちが主体的に学ぶということに加えて、協同的に学ぶということがとても重要視されています。もちろん理科教育でもそのような方向性を大切にした研究が増えました。

1部会の発表は、「科学的な目」を育て、科学的なものの見方、考え方のできる子どもたちを育てていこうとするものでした。2部会は、理科の有用性を実感させる授業作りとして、共感、共育の学びに焦点を当てた実践。3部会は、具体的な体験活動を重視して、実感を伴った理解を図ることの研究。4部会は、粒子を意識させる体験活動を積み重ねることによって見えないものをイメージし、科学的な思考力を育てることを主題とした研究。5部会は、見通しの場面を大切に、しっかりと考察のできる子どもたちを育てようという研究でした。どの部会の研究でも、素晴らしい実践がたくさん紹介され、大変参考になりました。講師の先生が、導入からまとめまでの問題解決の「縦」

のラインを大切にするとともに、みんなで答えを導き出していく「横」のラインを大切に考えていくことの必要性をお話しになり、その重要性を感じた1日でした。

見通しをもち、答えを見つけていく楽しさを味わえるような問題解決学習を教師側がしっかりと組み立て、子どもたちが協同的に問題を解決し、自分たちでわかっていく授業・・・そんな授業を理科の時間から実践していけるようにしたいと思います。

八街市立朝陽小学校 廣納 大典

私はどうすれば楽しく効果的な理科の授業ができるのかを書籍やインターネットで調べたり、先輩の先生方に聞いたりしながら日々授業を考えています。私が理科の授業で大切にしていることは、児童たちが予想をしてから実際に観察や実験を行い、自分たちの力で疑問を解決していくということです。児童たちは単に座学をするより、観察や実験をし、体験を通して学ぶ方が興味をもって活動し格段に理解をするからです。たとえそれが失敗であったとしても、記憶に強く残ってしまうほどです。

印教研集会では今年も「なるほど!」「そんなことまでするのか!」と驚きの連続でした。どの部会の提案も仮説を検証するためにとっても練られた手立てを立てていました。目・耳・鼻・口・皮膚の五官を用いた活動、意見の交流による共感・共育の学び、具体的な体験活動を重視した学習、見えないものの見える化、見通しをもつことを重視した問題解決学習など、多くのことを学びました。

今回得ることができた知識を1つでも多く活用できるようにするために、教材研究に励み、実践反省し、改善して授業を行っていきたいと思います。



佐倉市立佐倉東中学校 只井 雅人

私は初任ということもあり、研究部会は初めての参加でした。現役の理科の先生方が研究された成果を聞くことができるこの機会は、とても貴重なものとなりました。

発表内容を聞いていく中で、私はいかに狭い視野で授業を考えていたか思い知らされました。私は「どうしたらわかりやすく内容を理解させる事ができるか」という視点で授業を考えていたように思います。それは間違ったことではないのかもしれませんが、しかし、今回の発表のキーワードとなっていた「理科の有用性」と照らし合せてみると、物足りなさを感じました。

私は目先のテストや入試という課題に向けた、理科という教科の内容を教えていただけでした。しかし、こうした知識が今後の生活に役立つかと言われれば、そうとも言い切れません。そうなれば生徒も有用性を感じる事なく、なぜ理科を勉強しなければならないのか、と考えてしまいます。それは理科嫌いにもつながり、本来の目的とは逸れていってしまいます。

やはり今の私に足りないのは、「今後、役に立つ力を身につけるには」どういった取り組み・活動が必要なのかという視点なのだと思います。先輩方の知恵をお借りしながら、様々模索していくなかで、生徒が理科の有用性に気づけるような展開ができるように

なりたいと思います。

白井市立七次台中学校 飯高 浩太郎

児童生徒の理科離れがささやかれる中、今回、教研集会では、児童生徒の意欲を高めるための各部会の授業の工夫等をたくさん聴くことができました。

1部会の研究では、進んで自ら問題解決ができるような授業の工夫を知ることができました。また、教員の多忙の防止策として、教員のための情報交換ネットワークの設立も必要であると思いました。

2部会、3部会の研究では、日常生活と理科の関わりを実感できなかつたり、実験は楽しいが予想を立てたり考察を考えたりするのは苦手という実情があるので、興味を持たせる学習課題の設定の工夫や、体験・問題解決を伴った授業の展開や、他と共感・共有できる授業の工夫を教えてくださいました。

4部会の研究では、中学生がつまずきがちな、原子やイオンの粒子概念を身につけさせる工夫を教えてくださいました。モデルを使うことで定着率も大きく高まるので、私も是非実施したいと思いました。

5部会の研究では、生徒が敬遠しがちな予想・考察についての工夫を教えてくださいました。キーワード(語群)を設定することで、苦手な生徒にも取り組みやすく、学習意欲も向上すると思われました。

今回学んだことを、これからの教育活動に生かしていきたいと思っています



提案からの学びが多く、今後の授業改善につながる研修会になったようです。ご感想をお寄せいただいた4名の先生方、ありがとうございました。

